

天理市埋蔵文化財調査概報

森本・窪之庄遺跡（高岸地区）

1 9 9 0

天理市教育委員会

序 文

本市は、豊かな自然と数多くの文化遺産にめぐまれた土地であります。年々増加する埋蔵文化財の発掘調査は、開発と保存との調和を図りながら、より多くの遺産を次の世代へ継承していく大きな使命をもって続けられています。

本書は、平成元年度に国庫補助事業として実施しました発掘調査の概要です。多くの方々にご活用いただければ幸いに存じます。

最後に調査の実施にあたり、ご協力いただいた関係各位に深く感謝申し上げます。

平成2年3月

天理市教育委員会

教育長 上 司 幸 男

例 言

1. 本概報は、天理市教育委員会が平成元年度に国庫補助を受けて調査を実施した発掘調査の概要報告である。
2. 国庫補助調査の内、森本・窪之庄遺跡について本概要に掲載し、赤土山古墳第2次調査に関しては、別途報告書で作成した。
3. 調査と本概報の執筆は、天理市教育委員会 松本洋明が担当した。

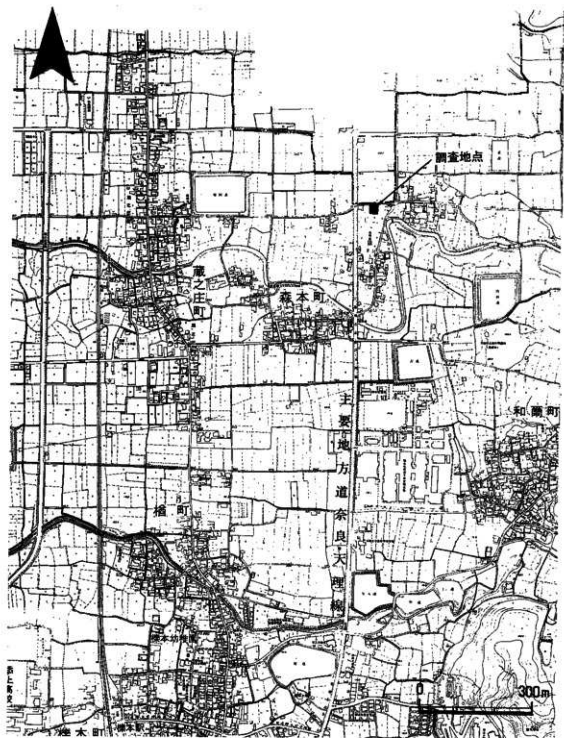


図1 調査地点位置図(S1/10000)

I はじめに

天理市北部、森本町から奈良市窪之庄町にかけて所在する森本・窪之庄遺跡は、菩提仙川によって形成した東西に流れる谷地形が大和盆地に流れ出た流域にあり、弥生時代の集落遺跡と推測されている。近年では、森本町から中之庄町にかけて県道が敷設され、その際の事前発掘調査で弥生時代から古墳時代にかけての遺構が検出されている。

今回の調査は、森本町 191-1 番地で個人住宅の建築計画が起こり、それに伴う事前調査を実施したもので、森本・窪之庄遺跡の範囲では南端部に位置している。

森本・窪之庄遺跡関連の調査は、これまで奈良県立橿原考古学研究所と天理市教育委員会が発掘調査がなされており、いずれ調査回数・回数のまとめが必要になることは確かである。ここではとりあえず高岸地区の小学名を使って「森本・窪之庄遺跡 高岸地区」と呼び、調査地点を明確にしておきたい。

調査は平成元年8月7日から8月21日まで実施した。

II 調査の概要

約300㎡の敷地において、その東辺部から南辺部にかけてL字状に調査区設定を計画した。ところが敷地の南東隅に物置小屋が残っていたので、東辺部に沿って長さ10m 幅4mの第1調査区と、南辺に沿って長さ14m、幅3mの第2調査区に区分して発掘を実施した。

第1調査区、第2調査区とも表土直下20～30cmで荒礫を多量に含む洪積層を検出し、地山面の状態であった。そのため調査地点には遺物包含層を含め旧地表面がすでに削平されていたことが判明した。おそらく現状の畑地に造



図2 調査区配置図(S1/400)

成する際に平地に削り変えられたと思われる。よって遺構や遺物は残っていなかった。

Ⅲ ま と め

森本町191-1番地、森本・窪之庄遺跡の南端部では、遺跡の痕跡を確認することができなかった。調査地点は標高74mで丘陵地形から扇状地形へ変わる接点にあたり、遺跡が残っていてもおかしくはない所である。



写真1 調査風景



写真2 第1調査区(北方から)



写真3 第2調査区(北方から)

平成2年3月

天理市埋藏文化財調査概報(1990)
森本・窪之庄遺跡(高岸地区)

発行 天理市教育委員会
編集 天理市川原城町605番地

印刷 ㈱天理時報社
天理市稲葉町80番地